

学期	月	単元	評価基準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	体づくり運動 (体ほぐし運動 体力を高める運動)	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動の意義には、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わう意義があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 体づくり運動の意義には、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高める意義があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 体の動きを高めるには、安全で合理的に高める行い方があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 体の動きを高めるには、適切な強度、時間、回数、頻度などを考慮して組み合わせる方法があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動で、「心と体の関係や心身の状態に気付き」、「仲間と積極的に関わり合う」ことを踏まえてねらいに応じた運動を選んでいる。 体の動きを高めるために、自己の課題に応じた運動を選んでいる。 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 仲間の補助をしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとしている。 ねらいに応じた行い方などについての話合いに参加しようとしている。 健康・安全に留意している。
	5	ネット型 (生徒の発達段階に応じて)	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出ししたりしている。 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、言ったり書き出ししたりしている。 球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 <p>○技能 (ボールや用具の操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> サービスでは、ボールやラケットの中心付近で捉えることができる。 味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。 相手側のコートの中に入った場所にボールを返すことができる。 (定位置に戻るなどの動き) 相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。 プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻るることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 作戦などについての話合いに参加しようとしている。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 健康・安全に留意している。
	6	陸上競技 (ハードル走、走り幅跳び 走り高跳び)	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸上競技は、自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出ししたりしている。 陸上競技は、古代ギリシアのオリンピア競技やオリンピック・パラリンピック競技大会において主要な競技として発展した成り立ちがあることについて、言ったり書き出ししたりしている。 陸上競技の各種目において用いられる技術の名称があり、それぞれの技術で動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 陸上競技は、それぞれの種目で主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 <p>○技能</p> <p>ハードル走</p> <ul style="list-style-type: none"> 抜き足の膝を折りたんで前に運ぶなどの動作でハードルを越すことができる。 インターバルを3又は5歩でリズムカルに走ることができる。 <p>走り幅跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> 踏切線に足を合わせて踏み切ることができる。 かがみ跳びなどの空間動作からの流れの中で着地することができる。 <p>走り高跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> リズムカルな助走から力強い踏み切りに移ることができる。 脚と腕のタイミングを合わせて踏み切り、大きなはさみ動作で跳ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。 練習や競争する場面で、最善を尽くす、勝敗を受け入れるなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。 勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとしている。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 健康・安全に留意している。

7 9	水泳 (4泳法)	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 <p>○技能</p> <p>[泳法]</p> <p>クロール</p> <ul style="list-style-type: none"> 水面上の腕は、ローリングの動きに合わせてリラックスして前方へ動かすことができる。 <p>平泳ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> 肩より前で、両手で逆ハート型を描くように強くかくことができる。 フルのかき終わりに合わせて顔を水面上に出して呼吸を行い、キックの蹴り終わりに合わせて伸び(グライド)をとり、1回のストロークで大きく進むことができる。 <p>背泳ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> 水面上の腕は肘を伸ばし、肩を支点にして肩の延長線上に小指側からまっすぐ入水することができる。 一連のストロークで、肩をスムーズにローリングさせることができる。 <p>バタフライ</p> <ul style="list-style-type: none"> 腕を前方に伸ばし、手のひらが胸の前を通るようなキーホールの形を描くようにして腰や太ももくらいまで大きくかく動き(ロングアームフル)で進むことができる。 手の入水時のキック、かき終わりの時のキック及び呼吸動作を一定のリズムで行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、泳法の習得に適した練習方法を選んでいる。 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 水泳の学習に積極的に取り組もうとしている。 勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 用具等の準備や後片付け、計測などの分担した役割を果たそうとしている。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 水の安全に関する事故防止の心得を遵守するなど、健康・安全に留意している。
9 10	器械運動 (マット運動・跳び箱運動)	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 器械運動には多くの「技」があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出ししたりしている。 器械運動は、種目に応じて多くの「技」があり、技の出来映えを競うことを楽しむ運動として多くの人々に親しまれてきた成り立ちがあることについて、言ったり書き出ししたりしている。 技の名称は、運動の基本形態を示す名称と、運動の経過における課題を示す名称によって名づけられていることについて、言ったり書き出ししたりしている。 技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 器械運動は、それぞれの種目や系などにより主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 発表会には、学習の段階に応じたねらいや行い方があることについて、学習した具体例を挙げている。 <p>○技能</p> <p>マット運動</p> <p>〈回転系〉</p> <p>《接転技群(背中をマットに接して回転する)》</p> <ul style="list-style-type: none"> 体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。 開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや手の着き方などの条件を変えて回ることができる。 学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。 <p>《ほん転技群(手や足の支えて回転する)》</p> <ul style="list-style-type: none"> 全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。 開始姿勢や終末姿勢、手の着き方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。 学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。 <p>〈巧技系〉</p> <p>《平均立ち技群(バランスをとりながら静止する)》</p> <ul style="list-style-type: none"> バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元させるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。 姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。 学習した基本的な技を発展させて、バランスをとり静止することができる。 <p>跳び箱運動</p> <p>〈切り返し系〉</p> <p>《切り返し跳びグループ(跳び箱上に支持して回転方向を切り替えて跳び越す)》</p> <ul style="list-style-type: none"> 踏み切りから上体を前方に振り込みながら着手する動き方、突き放しによって直立体勢に戻って着地するための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして跳び越すことができる。 着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。 学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。 <p>〈回転系〉</p> <p>《回転跳びグループ(跳び箱上を回転しながら跳び越す)》</p> <ul style="list-style-type: none"> 着手後も前方に回転するための勢いを生み出す踏み切りの動き方、突き放しによって空中に飛び出して着地するための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして跳び越すことができる。 着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。 学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や発表を行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 よい技や演技に称賛の声をかけるなど、仲間の努力を認めようとしている。 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 健康・安全に留意している。
2				

<p>10 11</p>	<p>球技 ゴール型 (生徒の発達段階に応じて)</p>	<p>○知識 ・球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 ・学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出ししたりしている。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、言ったり書き出ししたりしている。 ・球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>○技能 ゴール型 〈ボール操作〉 ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートすることができる。 ・マークされていない味方にパスを出すことができる。 ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。</p> <p>〈空間に走り込むなどの動き〉 ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・ボールを持っている相手をマークすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ・作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ・練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。
--------------	----------------------------------	---	---	--

12	<p style="text-align: center;">武道 (柔道)</p>	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武道は对人的な技能を基にした運動で、我が国固有の文化であることについて、言ったり書き出したりしている。 ・武道には技能の習得を通して、人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・武道の技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・武道はそれぞれの種目で、主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 ・試合の行い方には、ごく簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 <p>○技能</p> <p>柔道</p> <p>〔基本動作〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢と組み方では、相手の動きに応じやすい自然体で組むことができる。 ・崩しでは、相手の動きに応じて相手の体勢を不安定にし、技をかけやすい状態をつくることができる。 ・進退動作では、相手の動きに応じたすり足、歩み足及び継ぎ足で、体の移動をすることができる。 <p>〔受け身〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横受け身では、体を横に向け下側の脚を前方に、上側の脚を後方にして、両脚と一方の腕全体で畳を強くたたくことができる。 ・後ろ受け身では、あごを引き、頭をあげ、両方の腕全体で畳を強くたたくことができる。 ・前回り受け身では、前方へ体を回転させ、背中側面が畳に着く瞬間に、片方の腕と両脚で畳を強くたたくことができる。 <p>〔固め技〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けさ固めではあごを引き、返されないように相手の後ろ襟と相手の肘を握り動かないようにさせることができる。 ・横四方固めではあごを引き、相手の後ろ襟と帯をもち、返されないようにすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・練習の場面で、仲間の伝統的な所作等のよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ・用具等の準備や後片付け、審判などの分担した役割を果たそうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ・禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。
1	<p style="text-align: center;">ダンス (現代的なリズムのダンス) LOCK</p>	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの交流や発表の仕方には、簡単な作品の見せ合いや発表会などがあること、見る人も拍手をしたりリズムをとるなどしたりして交流し合う方法があることについて、学習した具体例を挙げている。 ・自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズムカルな全身運動をすることで、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。 <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なリズムの取り方や動きで、音楽のリズムに同調したり、弾む動きをしたりして自由に踊ることができる。 ・全身でビートに合わせて弾んだり、ビートのきいたブレイクダンスでは膝の上下に合わせて腕を動かしたりストップするようにしたりして踊ることができる。 ・リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。 ・リズムや音楽に合わせて、独自のリズムパターンや動きの連続や群の構成でまとまりを付けて踊ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに応じて、表したいテーマにふさわしいイメージや、踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。 ・ブレイクダンスの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ・体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともにダンスを楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ・ダンスの学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。 ・仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ・簡単な作品創作などについての話し合いに参加しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとしている。 ・健康・安全に留意している。
3	<p style="text-align: center;">球技 ベースボール型 (生徒の発達段階に応じて)</p>	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 ・ダンスは、様々な文化の影響を受け発展してきたことについて、言ったり書き出したりしている。 ・それぞれのダンスには、表現の仕方に違いがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・ダンスはリズムカルな全身の動きに関連した体力が高まることについて、学習した具体例を挙げている。 <p>○技能</p> <p>現代的なリズムのダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗れるように、簡単な繰り返しのリズムで踊ることができる。 ・軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたく、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりすたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。 ・短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどして、リズムに乗って続けて踊ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ・作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ・練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。

通年	保健	①傷害の原因と防止 多くの傷害は、心身の状態や行動のしかたなどの人的要因と、生活環境における施設・設備の状態や気象条件などの環境要因が関わり合って発生することを理解している。	傷害の発生要因とその防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	傷害の発生要因とその防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		②交通事故の現状と原因 交通事故による傷害を防止するには、車両の特性を知り、交通法規を守り、心身の状態を把握し、車両、道路、気象条件などの周囲の状況に応じて、安全に行動することが必要であることを理解している。	交通事故の発生要因とその防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	交通事故の発生要因とその防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		③交通事故の防止 個人としては交通法規を守ること、社会としては安全な環境づくりが事故を防ぐことを理解している。	交通事故の防止について、危険予測・危険回避の方法や定期的な車両点検を考えているとともに、それらを表現している。	交通事故の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		④犯罪被害の防止 犯罪被害の要因は、人的要因や環境要因などが関わり合っており、人的要因に対しては、危険を予測し、判断して、犯罪を避ける行動をとること、環境要因に対しては、周囲の人の関心を高めることなどの対策があることについて理解している。	犯罪被害とその防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	犯罪被害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		⑤自然災害に備えて 自然災害による傷害には地震、台風、大雨、竜巻、火山の噴火、落雷、大雪などによるものと、それに伴って発生する二次災害によるものがあること、日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと、災害情報を正確に把握すること、災害時には周囲の状況を的確に判断し、冷静かつ迅速に行動する必要があることを理解している。	自然災害による傷害とその防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	自然災害による傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		⑥応急手当の意義と基本 傷害が発生した際に、その場に居合わせた人が応急手当をすることで、傷害の悪化を防止してできること、心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としては、心肺蘇生法があることを理解している。	応急手当の意義や目的、手順について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	応急手当の意義や目的、手順についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		⑦きずの手当 ・出血があるときの応急手当の基本や方法について理解し、正しい応急手当の方法を身に付けている。 ・打撲傷などの外傷の応急手当の基本や方法について理解し、正しい応急手当の方法を身に付けている。	出血・外傷があるときの応急手当について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	出血・外傷があるときの応急手当についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		①生活習慣病とその予防 生活習慣病は、日常生活習慣が主な要因となって起こること、また、生活習慣病の多くは、適切な運動、食事、喫煙や過度の飲酒をしない、口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることによって予防できることを理解している。	生活習慣病とその予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	生活習慣病とその予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		②がんの予防 がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する病気であり、その要因には様々なものがあること、がんの予防には、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解している。	がんとその予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	がんとその予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		③喫煙と健康 たばこの煙の中の有害物質により、喫煙すると毛細血管の収縮、心臓への負担、運動能力の低下など様々な急性影響が現れること、また、常習的な喫煙により、がんや心臓病など様々な病気を起こしやすくなることを理解している。また、未成年者の喫煙は、体に大きな影響を及ぼし、依存症になりやすいことを理解している。	喫煙と健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	喫煙と健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。
④飲酒と健康 飲酒をすると、エチルアルコールによって思考力、自制力、運動機能が低下したり、事故などを起こしたりすること、急激に大量の飲酒をすると、急性中毒で死に至ることもあることを理解している。また、常習的な飲酒により、肝臓病や脳の病気など様々な病気を起こしやすくなること、未成年者の飲酒は、体に大きな影響をおよぼし、依存症になりやすいことを理解している。	飲酒と健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	飲酒と健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。		
⑤薬物乱用と健康 薬物を乱用すると激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きること、家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあることを理解する。	薬物乱用と健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	薬物乱用と健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。		
⑥喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、断りにくい人間関係、宣伝・広告や入手し易さなどの社会環境によって助長されること、それらに適切に対処する必要があることを理解している。	喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけについて、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけについての学習に自主的に取り組もうとしている。		
通年	体育理論	①運動やスポーツの効果 運動やスポーツは、体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果およびルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることを理解している。	運動やスポーツが心身や社会性におよぼす効果について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	運動やスポーツが心身や社会性におよぼす効果についての学習に積極的に取り組もうとしている。
		②運動やスポーツの学び方 運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があることを理解している。	運動やスポーツの学び方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	運動やスポーツの学び方についての学習に積極的に取り組もうとしている。
		③運動やスポーツの安全な行い方 運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ばないと、健康・安全に留意する必要があることを理解している。	安全な運動やスポーツの行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	安全な運動やスポーツの行い方についての学習に積極的に取り組もうとしている。